

Ⅲ. 高大接続研究センターの活動

1. 2023 年度活動報告

高橋 まりな

(1) センターの体制

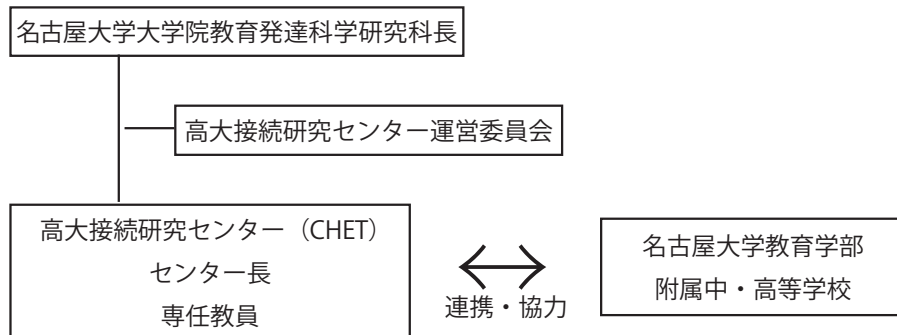
センター長は今年度より中谷素之教授が務めている。専任教員は、高橋まりな特任助教が昨年度から継続している。2024 年 2 月 19 日に運営委員会を開催し、事業報告と今後の調査・研究方針についての審議を行った。

〈2023 年度 高大接続研究センター運営委員〉

氏 名	所 属
中 谷 素 之	大学院教育発達科学研究科教授, 高大接続研究センター長
柴 田 好 章	大学院教育発達科学研究科教授, 教育学部附属中・高等学校長
石 井 拓 児	大学院教育発達科学研究科教授
内 田 良	大学院教育発達科学研究科教授
野村 あすか	大学院教育発達科学研究科准教授
高橋 まりな	大学院教育発達科学研究科特任助教
三小田 博昭	教育学部附属高等学校副校長

(2023 年 4 月現在)

〈高大接続研究センターの組織図〉



(2) 活動報告

現在高大接続研究センターでは、①高大接続に関する研究、②高大接続入試に関する研究、③中等教育に関する研究、④新たな大学入学者選抜の開発、⑤高大接続に関する事業の実施に取り組んでいる。

① 高大接続に関する研究

紀要の刊行

2024 年 3 月にセンター紀要第 9 号 (本誌) を刊行した。投稿規程を見直し、今年度から研究科内教員と大学院生、センター研究員の投稿を可能にした。

機構構成員向けセミナー

「『高大接続』とは何か 教師になろうとするひとに考えてほしいこと」

研究成果を全学に還元する試みとして、2017年度から毎年「教職を志望する名大生のための『高大接続』セミナー」を開催している。日程は例年通り東海エリアの教員採用試験の前になるようにという配慮で7月8・9日にオンラインで実施した。

昨年度より参加募集の範囲を名古屋大学構成員から機構構成員に拡大した。昨年度は岐阜大学からも参加があったが、今年度は参加がなかった。

②高大接続入試に関する研究

シリーズ「テストと入試をめぐる座談・快談」を通じた研究テーマ・論点の探索

2022年度から座談会形式の公開学術討論シリーズを継続開催している。2023年度の座談会「『探究的な学び』と高大接続 —探究的な学習の成果は大学入学者選抜・大学教育にどう生かされるか—」を2024年2月2日(金)13:30-15:30にオンラインで開催した。司会進行を前センター長の柴田好章教授、話題提供を附属中学校副校長の今村敦司氏、立命館大学教学部の西浦明倫氏、当センター専任教員の高橋まりな特任助教が担当し、当センター研究員の大谷尚先生、大塚雄作先生、松下晴彦先生、村上隆先生がコメンテーターを務めた。

③中等教育に関する研究

高校生対象の主催行事「学びの杜・学術コース」の調査分析を行っている。成果は附属学校の紀要、WWL 報告書とセンター紀要で公表した。

④新たな大学入学者選抜の開発

附属学校から名古屋大学へのグローバル人材育成を目的とした高大接続入試の実現

今後の展開に向けて情報収集を継続している。

⑤高大接続に関する事業の実施

一日総合大学（附属学校と共催）

自己の進路を自覚的に選択するキャリア形成教育の一環として、名古屋大学の各学部の教員から附属高校生徒へ、教育・研究内容について紹介するイベントである。2019年度以前は高校1・2年生全員が参加していたが、本年度は昨年度に引き続き2年生のみに限定した。

学びの杜・学術コース（主催）

高校生向け講座「学びの杜・学術コース」は、名古屋大学の教員を中心とした研究者たちが、それぞれの学問領域における大学レベルの「学び」を体験する機会を高校生たちに提供するもので、2005年の開始から18年目を迎えた。

2020年度から2022年度にかけては、新型コロナウイルス感染症対策のため、参加者を所属学校で制限し、オンラインやハイブリッドを活用して開催していた。今年度は3年ぶりに以前と同様、高校生なら誰でも参加できる対面のイベントに戻した。また、今年度初めての試みとして、名

古屋大学オープンキャンパスの Web サイトに掲載案内を掲載した。

昨年度に引き続きコース制は廃止し、講義単位で申し込みができるようにした。参加者は 90 分の講義に 10 コマ以上出席すると修了証（研究科発行）、それに満たない場合は受講証明書（センター発行）を授与される。附属学校の生徒は修了証の条件を満たすと高校の単位認定を受けられる。来年度以降、他校でも同様の取り組みを行ってみたいか働きかける予定である。

今年度は 153 件の申し込みがあり、抽選を経て 149 名からの申し込みが確定した。申込者の所属学校は、附属学校が 83 名、それ以外の高校・高専が 66 名（国立 1 名、愛知県立 49 名、名古屋市立 12 名、県外公立 2 名、私立 2 名）であった。また申込者の学年は、1 年生が 69 名、2 年生が 72 名、3 年生が 8 名となり、例年より 2 年生の割合が多かった。

計 31 の講義があり、合計コマ数は 47 であった。参加予定者数は延べ 529 名であったが、例年に比べ欠席者が多く延べ 71 名が欠席した。抽選で受講を断った生徒がいたにもかかわらず最終的に欠員が 2 名になったり、1 つの講義で 12 名が欠席したりするなど、運営に支障のある欠席が目立った。最終的な出欠状況を踏まえ、修了証対象者が 41 名、受講証明書対象者が 99 名となった。

附属図書館との連携事業（附属中央図書館調査学生支援グループと共催）

主に学部 1 年生を対象とするセミナー、ワークショップ

学部新 1 年生が大学での学びにスムーズに移行できるよう支援する目的で、附属中央図書館情報サービス課情報リテラシー係とのコラボレーション企画による初年次生向け講演を行った。講演会は 2023 年 4 月 19 日に開催され、その後、学内限定で動画を公開している。タイトルは「高校での学びと大学での学びは何がどう違うのか」、講師は名古屋経済大学の太谷尚先生が、進行役は当センター特任助教の高橋まりなが担当した。

レポート執筆の基礎となる「問いの立て方」を、主に学部 1 年生に学んでもらうためワークショップを開催した。タイトルは「Q 深く考える練習」、講師は高橋が担当した。1 回 30 分で、4 月 12 日と 5 月 18 日は対面、5 月 26 日はオンラインで実施した。

主に学部 4 年生を対象とするワークショップ

研究計画に関するワークショップ「わかってもらえる研究計画の考え方・伝え方」を開催した。講師は高橋が担当した。10 月 17 日は対面、11 月 2 日と 10 日はオンラインで実施した。

他研究科教員のアウトリーチ活動への協力

専任教員の高橋まりなが研究代表者石原一彰（工学研究科）の未来社会創造プロジェクト（アカデミア組成・課題提案型）「SDGs に貢献する未来指向型触媒の有機合成法の研究」の分担者としてアウトリーチ活動を企画した。2024 年 3 月 7 日に附属高校の生徒を対象としたセミナー「化学がわかればあなたの人生がより豊かになる」を開催した。